釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）４月30日発行　VOL ５

自立した学習者

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

４月が本日で終わりました。校長は学校の中で「最もひま」と言われていますが、今年の４月はどういうわけか毎日時間に追われていたように感じます。校長がこのような状況なので、教頭をはじめ教職員の皆さんはもっともっと忙しかったと思います。先週からは４月に予定されていた各種行事等が一段落したので、ようやく落ち着いて教科経営や学級経営、部活動経営に取り組めるようになったのではないでしょうか。大型連休の前半が終わり、今週の金曜日から後半が始まりますが、教職員の皆さんには、十分休養したり、家族とリラックスした時間を過ごしたり、自分の時間を確保して自己研鑽したりするなど、有意義な時間を過ごしてほしいと思います。

さて、多忙だった４月だったので、職員室の中もバタバタしていましたが、一日の中で18時30分を過ぎたころから静寂に包まれます。一人一人が何をしているのか覗いてみると、教科書を開いて指導内容を確認するとともに発問をノートに書き込んでいたり、パソコンを活用してワークシートを作成したり、学習指導要領の内容を参考に板書計画を立てたり、前時で生徒が考えた内容をパソコンで整理し次時の教材を開発したりしています。つまり、翌日の授業の準備を黙々としているのです。働き方改革の話は少し置いておいて、本校の教師の皆さんは全員が授業づくりに熱心に取り組んでいます。どうしてこのように授業づくりに取り組むのか、当然、目の前の生徒たちが未来社会を生き抜く力を授業を通して獲得してほしいという思いがあることは間違いありませんが、もう一つの要因は「校内研修」だと思います。

昨年度、研究主任の中村教諭が「サステナブル（持続可能）」をキーワードにして、忙しい中でも学ぶことができる校内研修の在り方を模索してくれました。釧路市が目指す授業の姿の提示や学習指導案の簡略化、若手とベテラン教員が互いに学び合う場の創出など、次々といろいろな取組を示してくれて、私たちもその流れに乗って研修を進めた結果、授業づくりの楽しさや、みんなで授業について語り合う喜びを改めて実感することができました。

そして、今年度は「校内研修にイノベーション（革新）を！」を合言葉に、「生徒のためになる」、「自分たちのためになる」、「サステナブル（持続可能）な」校内研修を目指すとともに、何と中央小学校と青葉小学校との共同研究が始まります。昨年度末から３校の研究主任が度々顔を合わせる機会を設け、合同研修に向けて準備をしてくれました。そして、３校共通の研究テーマとして「子どもたちが主役の『学ぶ意味と学ぶ楽しさを感じられる授業』」、サブテーマとして「自分で考え、判断して、行動できる『自立した学習者』の育成」を設定してくれました。私たち一人一人が「自立した学習者」になれば、生徒たち一人一人も「自立した学習者」になっていくことを自覚しながら今年度の校内研修を全教職員で進めていきます。